

令和6年度第1回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

1 議事内容

(1) 議長及び副議長の選出

それぞれ選出

(2) 議事録の記録方法等について

議事録は要点記録とすること及び会議は原則公開することを決定

(3) 事務局からの説明

ア 社会教育とは

イ 社会教育委員の役割及び職務

ウ 長崎市の社会教育の取組

エ 長崎市の主な社会教育施設の状況

(4) 諮問事項の協議

ア 諮問事項

「地域でつながる社会教育の展開について」

イ ねらい

コロナ禍を経て、高齢者や困難を抱えた親子が地域で孤立するなど、人とのつながりの希薄化から生じる社会問題が深刻化し、学びを通じた、地域コミュニティを支える基盤づくりが期待されている。

また同時に、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校と地域の相互連携・協働のもと、一体となって子どもたちの成長を支えていくコミュニティスクールや、地域学校協働活動による一体的な学校づくりと地域づくりの推進が求められています。

障害のある人もない人も子どもから高齢者まで誰もが互いに人格と個性を尊重し、支え合って共生する社会を目指し、地域や学校、家庭等が協働・連携できる、人づくり、つながりづくり、地域づくり

の好循環を育む社会教育の展開について考えていくために、本テーマを設定している。

2 主な意見

- (1) 子どもたちは、コミュニティの中で家族や友達、地域の先輩と遊びなどの体験を通じて様々なことを学んできたが、今の子どもたちは、社会の変化の中で、このような体験をする場が少なくなっている。
- (2) 学びの在り方、学び方が変化している。学び方もアクティブラーニングだとか、座学で学ぶだけでなく、別な場所で体験してきてフィードバックする学びの形がある。社会教育が社会の変化にどう対応していくかを考えていく必要がある。
- (3) 若者のニーズに応えるような学びの提供について、企画する側が、参加者ニーズの捉える視点として、例えば学生は就職活動に役立つ楽しい企画などに興味があるのではないかなど、中学生は何に興味があるのか、小学生は何をしたいか、ニーズを知っているかが大切である。
- (4) まちづくり協議会の取り組みで、新しい形で体験参加できるイベントを企画している。このイベントではレクレーション団体の運営する輪投げなど体験ゲームのほかに、子どもに人気のゲーム「スマッシュブラザーズ」などのブースを設け、子どもたちが200人くらい集まる。ゲームで呼び込み、他の体験につながり、子どもと一緒に来る保護者が、運営するコミュニティ協議会の役員とつながっていく。
- (5) コミュニティ協議会の役員は高齢だが技術を持っていて、これを自分だけの技術で終わらせるのではなく、子どもたちに教えに来て

くれることで、つながっていく。

- (6) 子どもを夫婦だけで育てないといけないということが強い社会になってきている。ひと昔前は近所の人が子どもに関わることで、子どもたちが学ぶ場もあった。親だけに責任を負わず、社会で子どもたちを見守ることが広がればいいと思う。
- (7) 高齢者が昔遊びやペーロンなど、子どもと地域の方とのふれあいなどの活動があるが、保護者の責任を求めたり、保護者の同意が必要となっている。リスクなど課題となる垣根をどう越えるか重要となる。もちろん安全は大切だが、思ってもいない効果が生まれることもある。
- (8) 健全育成の分野は、公共（行政）だけで提供しなくても地域でも子どもとのイベントなどを通して、地域の人同士が顔を知らない、いざというときに力を合わせることができないなどの状況を変える意味でも、行政と地域と一体となってやっていくことが大切である。
- (9) 学校でも、地域の方が学校に入ってきて子どもたちとかかわってほしいが、ふるさと教育など多様化していて、どこまでどれだけマネジメントすればよいか難しい。
- (10) 市では、仮想空間（メタバース）などを活用するような取り組みを進めていこうということはあるのか。
- 社会教育ではまだないが、学校教育の場面で不登校の子の学びの場として、多様な形の学ぶ場を様々な手法で提供し、選択肢を増やすやり方が必要だろうと思っており、学校に出て来られない子が、メタバース空間で登校する、モデル事業に取り組もうとしている。